

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成 25 年 3 月発行 No.36 号



セイシカ

西表島横断道適正利用推進協議会に出席

11月28日(水)、西表島横断道適正利用推進協議会が、西表島の船浦地区地域活性化施設(ときめきホール)で開催されました。

この協議会は、西表島横断道(協議対象とする「横断道」とはカンピレー口から大富口までをいう)に関する関係者間の情報共有を図るとともに、横断道の整備及び管理方針、利用方法並びに役割分担などの検討を行い、横断道の安全で適正な利用を推進することを目的として行政機関、民間団体などが集まり年数回開催されているものです。

今回の協議会では、①前回議事概要、②横断道の維持管理について、③標識整備について、④入山届けの提出について、⑤横断道協議会の発展についての提案など、盛りだくさんの協議がなされました。なお、検討課題は引き続き議論を深め協議することとなりました。



「西表島横断道適正利用推進協議会」

森の巨人たち百選「仲間川のサキシマスオウノキ」・「ウトラ川のオヒルギ」のモニタリング調査を実施

森の巨人たち百選に選定されている仲間川のサキシマスオウノキのモニタリング調査を11月26日(月)に、ウトラ川のオヒルギのモニタリング調査を11月29日(木)にそれぞれ実施しました。



「仲間川のサキシマスオウノキ」

両日共、雨時々曇りの天気で調査が順調に実施できるか心配しましたがどうにか終了することが出来ました。

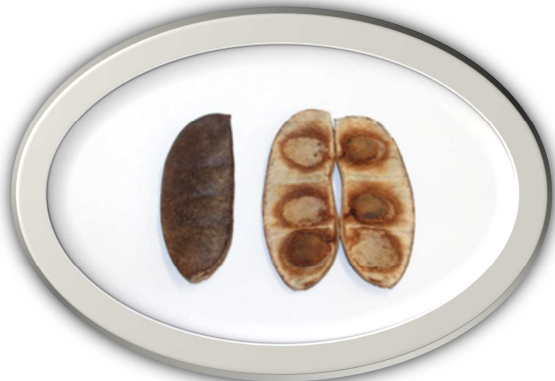
サキシマスオウノキの調査項目は、樹高・幹回り・板根の測定調査と光環境の変化、周辺区域の植生調査そして枝張りの状況を調査しました。一方のオヒルギの調査では、光環境の変化、地盤高調査、周辺区域の植生調査そして塩分濃度の測定を行いました。

両巨樹の調査とも、これまでの調査結果と大きく変化したものはありませんでしたが、サキシマスオウノキの板根の間にタカサゴシロアリの巣が確認されました。観覧用のウッドデッキから見て正面のところで確認されます。今後の何らかの対策が必要と考えているところです。

絶滅危惧種タシロマメの保存のための生育調査

タシロマメは材が堅くシロアリの害にも強く建築用材として利用されていたが、現在、確認されている個体は石垣島・西表島でそれぞれ一カ所のみで非常に少なくなっており、絶滅危惧ⅠA（CR）に分類されています。

そのタシロマメを保存するため、西表島で現存している箇所の生育調査を行ったところ5年前に調査したときより稚樹の発生が多数確認されました。また、種子も数個採取することができたので今後のタシロマメの後継樹の育成に役立てたいと考えているところです。



「タシロマメの種子」



「タシロマメの稚樹」

平成 24 年度ヒナイ川・西田川の利用状況調査（12 月分） 報告

12 月期の利用状況調査をヒナイ川は 17 日（月）、西田川は 20 日（木）に実施しました。結果、ヒナイ川はカヌーツアーが 9 組、利用者数が 64 名（ガイド含む）で大変な賑わいとなりました。



「ガイドの説明を聞く修学旅行生」

今回は、神戸からの修学旅行生 7 組の利用があったもので、ガイドさんも久しぶりの賑わいと話されていました。修学旅行生を除くとカヌーツアーは 2 組、利用者数 10 名（ガイド含む）となりました。修学旅行生達は、初めて西表島での自然の豊かさを体感し、楽しんでいました。

一方、西田川は天気が良く日中も暖かく、絶好のカヌー日和でしたが利用者はありませんでした。利用者数ゼロは、今年度 6 月の調査以来 2 度目で寂しいものがあります。

漂流・漂着ゴミの実態調査

12 月 14 日（金）に漂流・漂着ゴミの実態調査とプロット調査を実施しました。

今回の調査では、前回の調査と比較して各調査地共大きな変化はありませんでした。西表島東部の野原、北部のユチン、船浦湾内、湾外の各調査地点では漂流・漂着ゴミの多い状況が続いています。

今回は、四半期毎のプロット調査を実施しましたが、ユチン、船浦湾内の両調査地共に前回の 9 月期調査と比較しゴミの量が大幅に増加しました。特にプラスチック類、ガラス類の増加が顕著です。ペットボトルのラベルバーコード識別では、識別ができたペットボトルは全てが中国製品でした。



「ユチン地区のごみ調査プロット」

仲良川と仲間川のマングローブ林のモニタリング調査を実施

西表島の主要な河川で観光遊覧船が運航している仲良川と仲間川に設定したマングローブ林のモニタリング調査を1月7日(月)、8日(火)に実施しました。

7日、8日ともに朝から霧雨が降るなど不安定な天候下で調査を開始しましたが、午後になりますます風雨が強まり寒さも増し、最悪の調査日和となりましたが予定した調査はどうか履行することが出来ました。



「仲良川の調査地」

調査結果をみますと、仲良川で今回8本の新規枯損木を確認し、仲間川についても5本の新規枯損木を確認しました。どちらの河川においても川岸近くのマングローブが倒伏枯損している状況なので、今後も枯損本数は増えていく可能性が強いと考えられます。

外来種ソウシジュ（白浜地区）モニタリング調査

外来種ソウシジュ(白浜地区)の平成24年度のモニタリング調査を、平成25年1月24日に実施しました。この調査は、外来種であるソウシジュが、西表島西部の白浜を起点とする旧白浜林道の奥深い内陸地に侵入生育している状況を、毎年度モニタリングしているものです。

ソウシジュの生育状況は昨年の調査と比較して新たな枯損木を確認し、また稚樹の発生は確認できなかったことから、全体として衰退の状況を示しており、西表島の自然再生は進んでいるものと思われます。

しかしながら、4箇所の調査地区以外の森林が空けた場所では、ソウシジュの幼木が数カ所で確認されたことから、今後とも推移を見守ることが必要であることを再認識しました。

ソウシジュの生育状況				
区分	設定時本数	H23.2.23	H24.1.19	H25.1.24
プロット1	2	0	0	0
プロット2	5	4	1	1
プロット3	5	4	3	3
プロット4	8	7	5	4
計	20	15	9	8



ソウシジュ

お知らせ

4月1日より組織再編によって当森林環境保全ふれあいセンターの名称が変わり、「西表森林生態系保全センター」となります。

西表島の似たものの植物

アカギ

vs. ショウベンノキ



区 分	木本類
分 布	沖縄、中国、アジアの熱帯地域、オーストラリア、ポリネシア
葉 の 形	卵形
葉 の 縁	鋸歯
葉 の 先	鋭尖形

区 分	木本類
分 布	四国（高知県）、九州南部、沖縄、台湾
葉 の 形	楕円形、長楕円形
葉 の 縁	鋸歯
葉 の 先	鋭形

葉の種類	3出複葉
葉の付方	互生
葉の基部	漸尖形
実の種類	核果
花・萼色	黄色

葉の種類	3出複葉
葉の付方	対生
葉の基部	くさび形
実の種類	球果
花・萼色	白色

せつ
めい
明

海岸近くの林地や低地などに広く分布し、大木となっているのをよく見かけます。また、緑化木として道路などにも植えられており、葉は3出複葉で、葉の縁は鋸歯があります。アカギ（赤木）の名前は材の色が茶褐色であることからついたそうです。雌雄異株。

せつ
めい
明

亜熱帯の常緑樹林内に生育し、高さ3-4m、ときには15mにもなる小高木です。葉は3つの小葉からなる3出複葉、まれに1個または5個の小葉からなります。小葉は楕円形で表面に光沢があり、無毛、縁には浅い鋸歯があり、長さ7-12cm、幅2.5-5cmです。花は円錐花序で多数の白色の花をつけます。実は、径7-10mmの球形で赤色に熟します。

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL: 0980-88-0747 FAX: 0980-83-7108
URL: <http://www.kvusvu.kokuvurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

